

第1回 保育のお仕事ステップアップ講座

日時：令和6年8月22日（木）

10時00分～

「幼児体育講座」

河田 隆 氏

13時00分～

「絵本の読み聞かせ講座」

小金沢 頼子 氏

場所：とちぎ福祉プラザ

「発達と遊び」

講師：宇都宮共和大学子ども生活学部

河田 隆 氏



講座の内容

- 運動遊びの効果
- 運動遊びと子どもの発育発達
- 子どもの体力低下問題を振り返る etc…

体育座りをして講座を聞き始める・・・体育座りも姿勢を保つ
のには運動しているのと同じとのことで、講座を聞きながらに
して筋トレ効果。

身体を動かすことをメインとする講座にしていこうとの先生
のご提案もあり、二人組になり、コミュニケーションを取りな
がら、息を合わせないとできない遊びなど実践。実際に保育で
取り入れる場合のポイントもわかり、明日の保育にすぐに活か
せるような簡単で楽しい遊びをたくさん実践しました。新聞紙
一枚で数種類の遊びができるという遊びも教えていただき、身
体を動かす遊びのバリエーションが広がったようです。



《参加者の声》

- 自分自身が現に幼児体育を教えていて、自分の内容と比べて足りていない所がたくさん学べたのですぐにも改善していきたい。
- 実践的なものを取り入れながらの講座だったので楽しみながら参加できました。保育にも取り入れたいと思います。
- 運動遊びを園でも取り入れたいと思っていたが、実践の仕方がわからずいたためとても役にたち学びになった。
- 二人でペアになった動作は家で子どもとやってみようと思いました。
- 二人一組で運動することで「相手に合わせる」ことを自然と学べるということが勉強になりました。
- 新聞紙で広がる遊びがたくさんあることが知れた。
- 日常のものでも遊びは無限大なのだと思います。
- 幼児期に考えること、たくさんの運動が後の子どもの発達にとっても良い影響があるんだと思いました。

「絵本の読み聞かせ講座」
講師：栃木子どもの本連絡会

小金沢 頼子 氏



講座の内容

- 絵本の選び方
- 保育にわらべうたを取り入れてみよう

「絵本の読み聞かせ講座」

多くの絵本を持参し紹介してくださいました。新しい絵本が毎年出版されているなかで、何十年も前から読み継がれている絵本には、その良さがあるそうです。選ぶならベストセラーよりロングセラー（目安20年）をお勧めしますということでした。

また、昔話は乳幼児から小学生の高学年まで、幅広い年齢層に向いているそうです。近年、デジタル書籍の利用者も増えている中、紙ベースの方が定着度や理解度が高いといい、ページをめくるといふ作業もコミュニケーションのひとつとなり、「その時間も大切にしていけるといいですね。」ということでした。絵本は心の距離を縮める力があり、保育の中に絵本をたくさん取り入れていただきたいということでした。



《参加者の声》

- ・わらべうた、昔話の活用ができていなかったため、今回の講義を受けて大切さを知ることができました。活用していきたいと思います。
- ・わらべうたや昔話を改めて読んでいきたいと思いました。
- ・絵本選びを迷うことがあるので、今回の講座はとても役に立ちました。
- ・良い本の選び方、読み聞かせの基本など今後に活かせることを学べた。
- ・読み聞かせの具体的なスキルを教えていただき参考になりました。
- ・絵本がなぜ大切なのか、どのように活かしていけたら良いのかわかった。
- ・絵本のストーリーは自分の体験と考えるという話を、自分が子育てしている時に知りたかったなと思いました。
- ・子どもの前向きな意識、未来的思考を育むのに絵本選びも大切だと強く思いました。
- ・なんとなく読んでいた絵本でしたが、「どんな絵本を読んであげたいのか」という視野を持つことができた。
- ・絵本の世界の深さ広さを学ぶことができました。様々な視点から絵本についての知識を深めることができました。
- ・絵本から手遊び、昔話などいろいろな遊びが広がっていくと知り、絵本の読み聞かせのメリットを再認識しました。
- ・行きて帰りし物語という言葉が絵本の読み聞かせには重要ということが心に残り、読み聞かせの際、本を選ぶ基本にしたいと思いました。



第2回 保育のお仕事ステップアップ講座

日時：令和6年10月9日（水）

10時00分～ 「障害児支援講座」

鈴木 侑里子 氏

13時00分～ 「保育実践講座」

田所 順子 氏

場所：とちぎ福祉プラザ

「発達障害の基本的な理解と対応について」

講師：栃木県発達障害者支援センター ふぉーゆう

鈴木 侑里子 氏



講座の内容

- 発達障害の定義
- 支援のポイント
- 「ペアレントプログラム」について



「発達支援について知りたい」「どのように関わって行ったら良いのか知りたい」などのご意見から、今年度も「障害児支援講座」を行いました。前年度の講座も大変好評をいただいた、障害児への理解と対応を深める講座です。

発達障害の定義について話された後、それぞれ障害児の特性を確認したうえで、子どもたちとどのように関わり、支援をして行ったら良いのか、具体例を交え対応の仕方、支援のポイントを学びました。ほめるためにいい所を見つけるという「ペアレントプログラム」では、グループワークの形態をとり、実際に現状把握表を記入して自身に置き換えて考える良い機会となりました。その考え方は、家庭でも職場でも取り入れていきたいという参加者の声が多数寄せられました。学びの多い講座となりました。

《参加者の声》

- ・例えがひとつひとつ分かりやすく、学生の自分にも理解することができました。先生の話し方が優しく安心して聞くことができました。視覚的に理解してみようのところが1番分かりやすかったです。
- ・声掛けの仕方や視覚的支援の仕方を活用していきたい。
- ・望ましくない行動、望ましい行動をした時の対応の仕方が勉強になりました。
- ・発達障害を抱える子にとって、音や目から情報が想像以上に大きいと学びました。
- ・日頃からつい自分に厳しくなりがちだが、まずは自分を褒めることが子どもに対する態度も変えていけるかもしれないと思った。
- ・マイナスからプラスの思考、前向きになれるようにするにはどうすれば良いか知ることができた。
- ・支援の仕方が具体的に分かった。また、大人の認知を変えるワークをしたことにより支援児に対する考え方、関わり方を学ぶことができた。
- ・注意するときは目線を合わせずに淡々とした口調で言うことを知り活用していきたい。

「保育実践講座」

講師：宇都宮共和大学 子ども生活学部

非常勤講師 田所 順子 氏

田所先生作の保育所保育指針を「ドレミの歌」替え歌バージョンを歌ったり、他にも昔話を民話風に言い換えるなど、実践を交えての講座のため、より興味を持ち理解を深めていた参加者の皆さん。けん玉、あやとりの昔遊びでは童心に返って、夢中になってチャレンジしてました。

「忍者ごっこ」では、忍者に変身した田所先生のもと、修行に励む！受講生の皆さん。会場は終始笑みに包まれていました。小道具の取り入れ方はアイデア満載のため、ぜひ保育に活かしたいという感想が多くみられました。



《参加者の声》

- 実践できる昔ならではの遊びや物語を通して子どもたちの「できた！」という気持ちを体験できました。保育でも活かしたいです。
- 民話のように話す方法が勉強になりました。
- 子どもたちのできた！を大切にしたいと思った。保育者も一緒になって楽しむことが大事だと分かった。
- 早速明日から活用できる内容で楽しかったです。
- 一つの遊びから展開するものがあり、ちょっとした工夫でワクワクしたりやってみたい気持ちがでる。
- 子どもたちのやってみたい気持ちを大切にしていきたい。
- 楽しいと思える保育の手立てとなりました。工夫して子どもたちと一緒に楽しみます。
- 保育にすぐ取り入れたいと思える楽しい講座でした。
- 実践を交えて教えていただき分かりやすかった。
- 心情・意欲・態度の3つを大切にしたい保育を心掛けたいと思う。
- 田所先生の引き出しがたくさんあり、子ども達と楽しめるように引き出しを増やしたいと思った。

★次回の開催は、令和6年12月13日（金）とちぎ福祉プラザ（宇都宮市）にて開催します。

10:00～12:00

「幼児安全法講習」

日本赤十字社栃木県支部 講習指導員

13:00～15:00

「幼児音楽講座」

つながりあそび・うた研究所 まっちゃん先生こと、町田浩志 氏

参加希望の方は、

とちぎ保育士・保育所支援センター（028-307-4194）までご連絡ください。

申込み QR コードはこちら →

